

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2394100206		
法人名	株式会社 e-smile		
事業所名	グループホームいこいの家 東海		
所在地	愛知県東海市大田町庄之脇7番地の1		
自己評価作成日	令和年9月25日	評価結果市町村受理日	令和6年3月14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;Jigy_osvoCd=2394100206-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;Jigy_osvoCd=2394100206-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人『サークル・福寿草』		
所在地	愛知県名古屋市中熱田区三本松町13番19号		
訪問調査日	令和5年10月13日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

おひとりおひとりの思いを受けとめ一日一日を楽しく穏やかに過ごしていただけるよう、スタッフ全員でキメ細かな支援を心掛けています。  
 広いリビングではゆっくりくつろいでいただき、ダイニングでは食事の準備のお手伝いやおやつレクを楽しめる広いスペースとなっています。施設周辺には保育所が移転し園児が園庭で遊ぶ姿を楽しめたりかわいい声に癒される日常となっています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当ホームは、1ユニットのホームでもある利点も活かしながら、日常的に職員間で意見交換等を行いながら利用者や家族の意向等を日常の支援につなげる取り組みが行われているが、運営法人で電子機器を活用した職員間で情報を共有することができるシステムもつくられており、電子記録も活用した職員間で情報を共有する取り組みも行われている。業務に関する情報についても職員間で共有する取り組みが行われており、チームで支援を行うことができる体制づくりが行われている。また、当ホームの周辺地域については、住宅や施設等の移転を伴うような区画整理が行われていることもあり、近隣地域の状況が変化しているが、今年度の動きとして、当ホームの近隣の場所に社会福祉法人による福祉事業所が開設されたこともあり、外部の方との新たな交流の機会にもつながっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	玄関、食堂、事務所に理念を掲示し、職員全員で共有している。施設目標の「いつまでも出来る事は自分で、いつまでも自分らしく笑顔で」を毎朝入居者様と一緒に唱和し支援に繋げている。	運営法人の基本理念を職員による支援の基本に考えながら、職員間で理念の唱和を行う取り組みが行われている。また、独自の理念も残しており、職員間で理念の内容を確認しながら、日常の支援につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	新型コロナウイルス感染拡大を防止する観点から繋がりが希薄になっていたが今後の状況次第では積極的に交流していきたい。	地域の方との交流については、近隣地域の区画整理が行われていることもあり、交流が困難な状況でもある。今年度に入り、当ホームの近隣の場所に社会福祉法人の福祉事業所が開所する等、当ホームとの新たな交流の機会にもつながっている。	近隣地域に変化があり、ホームとの新たな交流の機会にもつながっている。今後に向けた近隣地域の方とのホームの取り組みにも期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	施設の立地状況から積極的な行動を起こさなかったのが現状だった。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	新型コロナウイルス感染拡大防止の為延期されていたが令和5年7月より再開し沢山のご家族様の参加があり意見の交換や今後の様々な方針の話し合いが実施できた。	会議については、書面による実施が続いていたが、今年度に入り、対面方式での会議を再開しており、会議の関係者との情報交換等が行われている。会議に新たに参加して方もあり、ホームを知ってもらう機会にもつながっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	コロナ禍によりファックス、メールが主だったが、今後の状況次第では密な連携を取りアドバイスや指摘を頂けるようになればと強く感じます。	広域連合との情報交換等については、当ホームで行われている他にも、運営法人の関連事業所を通じても行われている。また、市内の介護事業所との交流も行われており、ホームの運営への反映につなげている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	事業所は幹線道路に面している為安全面に配慮し施錠している。身体拘束については止む得ない場合は、ご家族様に連絡し承認を得、記録を残している。	身体拘束を行わない方針で支援が行われており、ホーム内が広い利点も活かしながら、職員間で連携した利用者の見守りが行われている。また、身体拘束に関する定期的な検討や職員研修を実施し、職員の振り返りが行われている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	スピーチロック、フィジカルロック、ドラックロック3つのロックは何故現場で起きているか、注意すべき状況と防止の社内研修を常に実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	全職員が制度等理解できていないのが現状、今後研修等があれば参加し理解を深めたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入居契約時にゆっくり丁寧に一方的にならないよう説明し納得頂いて契約を交わすようにしている。 改定等があった際は覚書にして承認の印を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	入居者様・ご家族様からの意見、要望等は日々の申し送りノートや会社が推進しているツナグというアプリから職員全員に発信している。	ホームでは、再開した運営推進会議に複数の家族が参加しており、交流の再開にもつながっている。利用者や家族の要望等については、管理者が把握し運営法人の幹部職員にも報告している。また、定期的なホーム便りの作成も行われている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	月1回スタッフ会議を開き職員の意見や提案を出し合い、職員のモチベーションが下がらないよう可能な限り運営に反映させていくようにしている。	毎月の職員会議の他にも、日常的にも職員間での意見交換が行われており、職員からの意見等をホームの運営に反映する取り組みが行われている。また、管理者による職員面談の機会もつくっており、職員一人ひとりの把握につなげている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	職員の状況に合わせた勤務形態をとり、有給休暇の100%修得の確立と働きやすい職場環境となるよう努めスマイルシートによる個々の評価を実施している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	「皆が笑顔になる介護プロフェッショナル育成」からテーマに沿った研修を法人グループ全体で職員のスキルアップに繋げる研修を実施しレポートの提出ヒアリングをしアウトプットしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	市内6施設のグループホーム管理者の集まりがあり、様々な意見・情報交換やアドバイスを得る貴重な機会となっている。現在は縮小し少数人数での開催となっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入居前の利用者様の概要をしっかりと把握し、入居されてからは、ご本人様の状況を観察しながら要望や不安等を聴き取り信頼関係がより早く深くなるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	ご家族様の思いをしっかりと受け止め、不安感を与えない丁寧な対応で信頼関係を築くよう努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	今までの生活歴を把握したうえで、最も必要な支援を見極め施設でより良い環境の下穏やかに暮らして頂けるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	当施設のサービス提供の方針であるおひとりおひとりの思いを受け止め意思を尊重し日常生活を援助をさせて頂いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	面会制限が続いているため、職員には家族の一員のような気持ちをもって温かく接していただくよう、アットホームな雰囲気でも過ごして頂ける施設を目指している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	外出、面会制限がある為実施することが困難となっている。ケーブルテレビで地域の情報やイベントを楽しむ時間を取り入れている。	外部の方との交流が困難な状況が続いているが、利用者の中には電話等を通じて交流する等、可能な範囲で交流を継続している。家族との外出も徐々に増えており、身内の方の葬式や墓参り等を通じた入居前からの方との交流が行われている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	気の合う方同志対話が楽しめるよう座席に配慮している。ゆっくりとテレビを観ながら寛いで頂き余興も楽しんで頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	契約終了後は「いこいの家たより」を送付したり、年賀状や暑中お見舞いのやりとりが続いている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	スタッフ会議で各担当者によるカンファレンスした内容を共有している。今までの生活歴を考慮しより質の高い日常生活となるように検討している。	1ユニットの職員体制である利点も活かしながら、職員間で利用者や家族の意向等を把握し、電子機器等も活用しながら職員間での共有が行われている。また、カンファレンスの前に専用の用紙に職員の気付き等を記入する工夫も行われている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	日常の会話の中で家族関係、暮らし方、生活環境を把握し利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす時間を確保するようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	ベテラン職員が多数となり日々の動作や表情で心身の状態の変化をいち早く気づくことが多くなっている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	ご本人様の意思を尊重しご家族様の思いを受け止め、支援の中で感じた変化を生活日誌に記録し介護計画の見直しに繋がるようにしている。	介護計画については、6か月を基本に見直しが行われており、利用者の状態変化等に合わせた対応が行われている。職員間で利用者の変化等を把握できるように付箋等も活用しながら、定期的なモニタリングにつなげる取り組みも行われている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	生活日誌に記録し共有したい情報、気付き等は、携帯の通信アプリツナグで職員全員に発信し介護計画の見直しに繋げている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	ご家族様の中で可能な方には、ラインで日々の様子や写真をお送りしたり、メール等で状況をお知らせしてより施設を身近に感じていただくようにしている。日用品の購入、訪問理容、訪問歯科のサービスを取り入れ、看護師による健康管理を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	地域資源を活用することで、充実した介護環境が作れると感じている。地域資源を理解し今後有効活用出来るようになれば支援に努めていきたい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	入所時に入居者やご家族様の希望があれば、かかりつけ医で対応しご家族様の依頼により付き添い支援を行っている。協力医療機関による月2回の往診の他、歯科医による訪問診療もを行っている。	協力医との定期的及び随時の支援が行われており、利用者の健康状態に合わせた対応が行われている。受診は家族による対応を基本としており、ホームから情報提供等が行われている。また、看護師が勤務しており、医療面での支援が行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	看護師と入居者様の中には長年の付き合いとなっている方も多くなり信頼関係が深くなり相談しやすい間柄となっている。特変があれば対応の指示を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	コロナ禍に入り現在は電話でのやり取りのみとなっているが、ご家族様と共有しながら関係が途切れないようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	重度化した場合はまず主治医からご家族様への説明があり、看取り介護に移行となった場合は、改めて説明と同意を再確認し最善の支援が出来るように取り組んでいる。	身体状態が重い方もホームでの生活を継続できるように支援が行われており、利用者の中にはホームで最期を迎える方もいる。協力医との連携を深めながら、利用者の段階に合わせた家族との意向等の確認が行われている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	職員の入れ替わりにより定期的には行えていないのが現状となっているため見直しと訓練をする必要がある。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	年2回に消防、避難訓練の実施している。今後近隣に開設した福祉施設と同時に訓練の実施が出来るような関係性にしていきたい。	年2階の避難訓練を実施し、夜間を想定した訓練や通報装置の確認等が行われている。近隣に大型の福祉事業所が開設されたこともあり、近隣の方との新たな交流にもつながっている。備蓄については、食料を多く確保する取り組みが行われている。	今までは近隣に住宅がなかったこともあり、地域の方との協力関係が困難であったが、新たに開設した福祉事業所との交流等、今後に向けたホームの取り組みにも期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	人格を尊重することは、特に大切にしており職員が不快感を与えるような言葉や態度が見受けられた際にはその場で注意し、常に敬う思いを持ち対応に心掛けている。	運営法人の基本方針や指針等に、職員による利用者への対応に関する方針も掲げられており、職員間で内容を共有し、利用者への対応に関する意識向上につなげている。また、接遇にもつながる研修も実施しており、職員の振り返りにつなげている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	選択肢が広がるような言葉かけに努めている。時として誘導する言葉かけをしている時があり注意する事もある。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	一日の流れを習慣づけておられる方や、居室で自分のペースで過ごされたい方等、おひとりおひとりの気持ちを尊重しその人らしく充実感のある日々を送って頂けるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	女性の入居者様が多いので洋服、髪形、化粧品の話は盛んである。定期的な美容師によるカットをととても楽しみにして頂いているが、パーマをかけたい、毛染めをしたいという要望には応えていない。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	食事の盛り付け、配膳、食器洗い、食器拭きを可能な限りスタッフと一緒に行うようにしている。食事レクレーション時には職員も一緒に食事を共にさせて頂いている。	食事については、外部業者も活用しながら提供が行われているが、ホームのキッチンで食事を作る取り組みも行われており、利用者の楽しみにつなげている。また、利用者の身体状態等に合わせた食事形態の対応も行われている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	栄養バランスの整ったものを咀嚼力、嚥下力を考慮した食事に行っている。食事量、水分量はしっかり把握し申し送り時に共有している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後の口腔内、義歯洗浄の援助を徹底している。治療が必要になった時や義歯の不具合等が生じた時は訪問診療により可能な限り施設内で治療を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	排泄チェック表から個々の排泄パターンの把握に努め、誘導の言葉がけには羞恥心に配慮し支援に心掛けている。	利用者の排泄記録を残し、日常的に情報交換を行いながら、利用者一人ひとりに合わせた排泄支援が行われている。トイレでの排泄を基本に職員間で声かけ等が行われている。また、看護師との排泄に関する医療面での支援も行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	毎朝排便の確認を行い午前と午後には身体を動かす体操を日課としている。なるべく薬に頼らない支援をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている。	お好みの入浴剤を入れたり浴槽に浸かっている時間等は本人の希望になるべく浴えるようにしている。	利用者が週2回の入浴ができるように支援が行われており、入浴を拒む方にも声かけ等の工夫を行いながら、定期的な入浴につなげている。利用者の身体状態に合わせた職員2名での支援も行われている。また、季節等にも合わせた入浴も行われている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	本人の意向に添い気持ち良く休息、安眠に繋がるような会話や水分補給、適度な室内の温度等心掛けている。冬場は室内の感想を防ぐため濡れたタオルを掛けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	目的、副作用、用法、用量については、職員がいつでも確認できる場所に設置している。薬剤師ともいつでも確認相談ができる体制にしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	メリハリのある日々を過ごして頂けるよう心掛けている。室内で過ごされる時間が多くなったので、傾聴する時間を多く取り入れ職員がより身近な存在となるようコミュニケーションに努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	コロナ禍の現在は戸外に出かける企画は実施できないが、会社系列の施設間の交流会を計画。おやつレクレーションや鰻の炭火焼き等を実施し交流を深める事が出来た。	現状、感染症問題が長期化していることで、利用者の外出が困難な状況が続いている。季節等にも合わせた外出や運営法人の関連事業所に出かける等、可能な範囲で外出支援が行われている。	利用者の外出の機会が限られた範囲となっていることもあるため、今後の状況をみながら利用者の外出の機会が増えることを期待したい。



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	お金の管理は困難であると思われる為所持はされていないが、依頼された品を購入する支援は実施している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	希望がある時は電話の取次ぎをしたり、メールのやりとりの依頼をされる事もある。家族様からのラインでのやりとりのご希望には、日々の様子を動画等でお送りし喜んで頂いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	リビングの天窓からは、夏は優しく冬は温かい光が差し込み、明るさが清潔感を演出してくれます。 広いフロアの壁には入居者様と一緒に作った季節の作品の品々が展示され華やかな雰囲気を楽しむことができます。	ホーム内は広く、ゆったりとした空間が確保されている他にも、食堂と居間が別の場所になっていることで、メリハリのある生活の実現にもつながっている。ホーム内に利用者の作品の掲示を行う等、アットホームな雰囲気づくりも行われている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	利用者の席の配置には気を配り、気の合った利用者同士椅子やソファでゆっくり寛いで頂いている、 ソファで横になってテレビを見たり思い思いに過ごせるようになっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	使い慣れた家具や小物を持ち込まれ家族写真や、施設で作った作品等飾られている。仏壇を置かれてる方のご家族様が手を合わせに来所されることもコロナ禍前はよく見受けられていた。	居室には、利用者や家族との意向等にも合わせた好みの物等の持ち込みが行われており、一人ひとりに合わせた居室づくりが行われている。居室に収納スペースが設置されていることで、車椅子で生活している方も居室内を広く活用することができる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	施設目標の 「いつまでも出来る事は自分で！いつまでも自分らしく笑顔で！」 を毎日唱和出来る事やれることを見つけ出して支援に繋げている。		